C. 構造計画

1. 構造計画概要

■ 基本方針

清瀬市新校は、市役所に隣接するまちの中枢に位置し、不特定多数の方が利用する施設です。建物の構造においては、以下の 4 つの設計目標を掲げます。

① 高い耐震性能

地域の防災拠点としての役割を担うため、大地震後も機能を維持できる高い耐震性能を確保します。

② 更新性

今後の多様な学習形態の変化に柔軟に対応できる、フレキシブルな構造計画とします。

③ 経済性

敷地条件を踏まえ、合理的かつ経済的な工法を採用し、建設コストの最適化を図ります。

④ 環境性能・長寿命化

建設時の CO_2排出量を抑制し、耐久性に優れた構造体を創出します。また、解体時のエネルギー消費や資材のリユース・リサイクルにも配慮した工法を採用します。

■ 準拠図書

・公共建築工事標準仕様書：令和 7 年版
・建築基準法・同施行令、及び関連告示、指導等
・2025 年版 建築物の構造関係技術解説書
・日本建築センター関連指針
・日本建築学会関連規準および指針
・東京都建築構造設計指針 2019（東京都建築構造行政連絡会監修／東京都建築士事務所協会）
・構造設計指針・同解説　　令和 5 年 4 月（東京都財務局）
・建築耐震設計における保有耐力と変形性能（日本建築学会）
・建築基礎構造設計指針（日本建築学会）

■ 耐震性能目標

構造体の耐震安全性の分類はⅡ類とします。（表１）
建築非構造部材はA 類、建築設備は乙類とします。（表２）

表1　耐震安全性の分類（構造体）

部位	耐震安全性の分類	耐震安全性の目標	重要度係数（割増係数）
構造体	Ⅰ類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。	1.50
	Ⅱ類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られている。	**1.25**
	Ⅲ類	大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られている。	1.00

東京都財務局「構造設計指針・同解説」に準拠

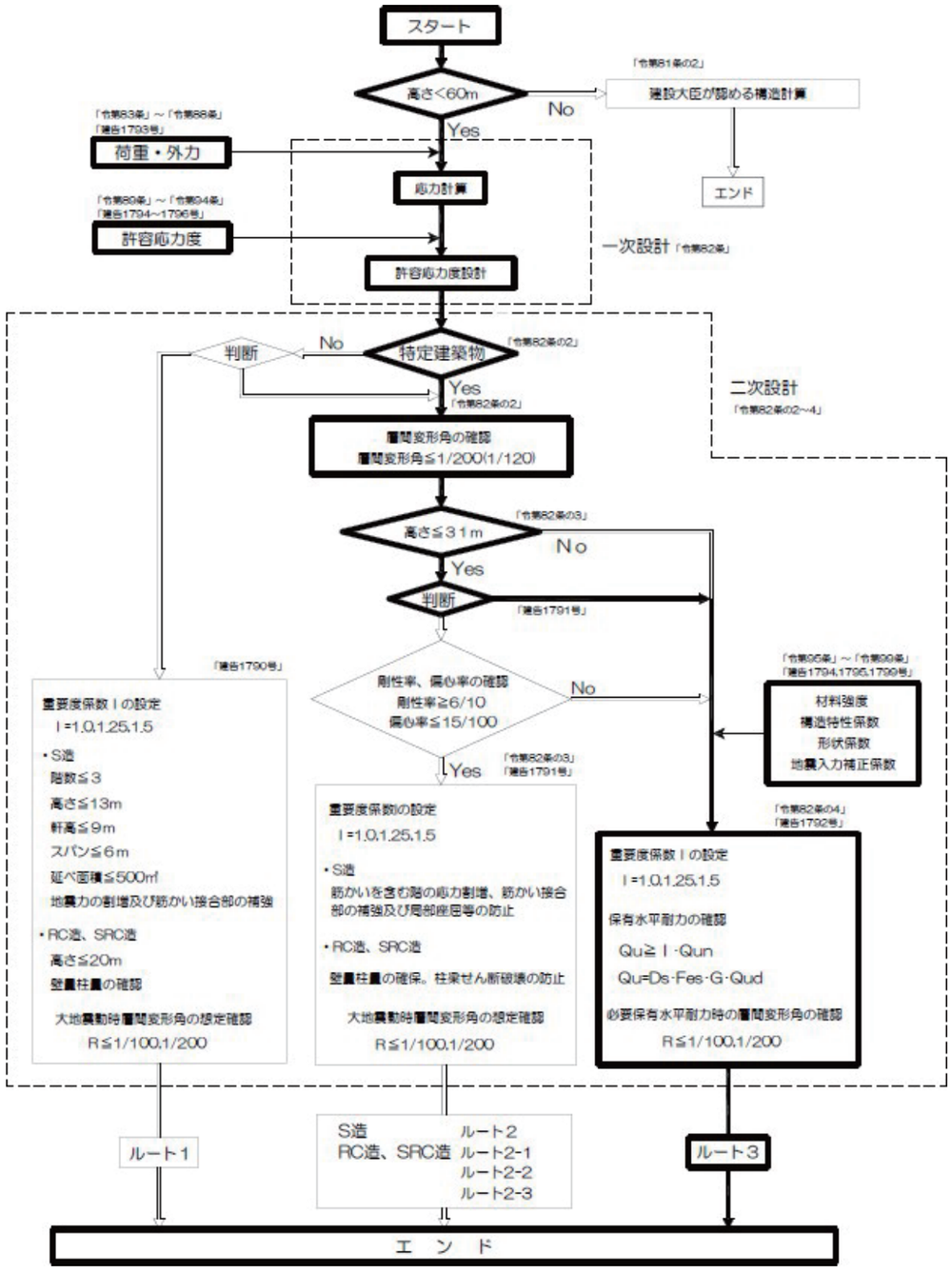
表2　耐震安全性の分類（建築非構造部材及び建築設備）

部位	耐震安全性の分類	耐震安全性の目標
建築非構造部材	**A 類**	大地震動後、災害応急対策活動や被災者の受け入れの円滑な実施または危険物の管理のうえで、支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。
	B 類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られている。
建築設備	甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られていると共に、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できる。
	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られている。

C. 構造計画

■ 構造計算ルート

構造計算ルートは、ルート３とします。



■ 使用材料

・コンクリート（主架構）：計画共用期間の級を「長期」と想定し、以下とします。

a. 設計基準強度　Fc = 30 N/㎟以上

b. 耐久基準強度　Fd = 30 N/㎟

c. 品質基準強度　Fq = max(a or b) + 3 N/㎟ = 33 N/㎟ 以上

表　コンクリートの計画供用期間の級および耐久設計基準強度(JASS5)

計画供用期間の級	耐久設計基準強度（N/mm2）
短期（計画供用期間およそ30年）	18
標準（計画供用期間およそ65年）	24
長期（計画供用期間およそ100年）	30
超長期（計画供用期間およそ200年）	36

・鉄筋：SD295（D16 以下）、SD345（D19～D25）、SD390（D29 以上）

・鉄骨：（梁）建築構造用圧延鋼材 SN400B、SN490B 等

（柱）建築構造用炭素鋼鋼管 STKN400B、STKN490B BCR295 等

（二次部材）一般構造用圧延鋼材 SS400 等

■ 荷重および外力

(1)　固定荷重

固定荷重は令第 84 条の規定によるほか、材料の種別及び部材寸法の実況に応じて算定します。

(2)　積載荷重

積載荷重は令第 85 条の規定及び下表によるほか、実況に応じて算定します。

表　主な諸室の積載荷重表（単位：N／㎡）

用　途	床・小梁 計算用	架構 計算用	地震力 計算用	準拠基準
教室	2900	2100	1100	建築基準法・同施行令
特別教室 図書室	3900	2400	1600	構造設計指針・同解説
体育館	3500	3200	2100	構造設計指針・同解説
一般書庫	7800	6900	4900	構造設計指針・同解説
職員室	3900	2100	1100	建築構造設計指針（文科省）
廊下・階段	3500	3200	2100	建築基準法・同施行令

C. 構造計画

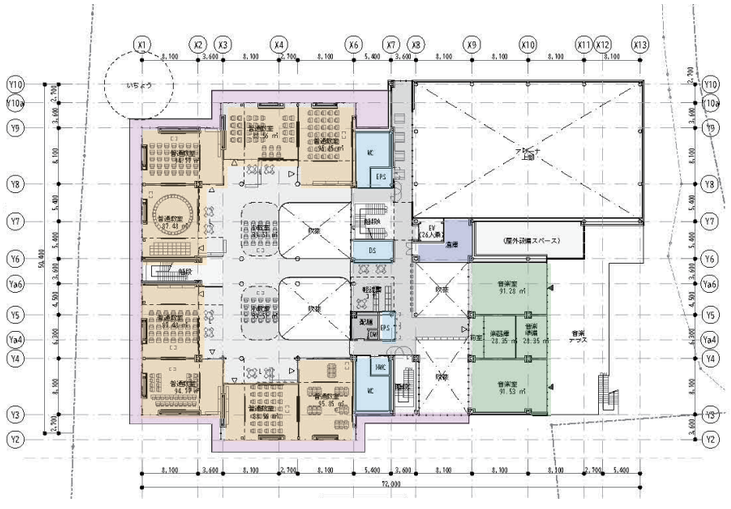
■ 積載荷重区分図



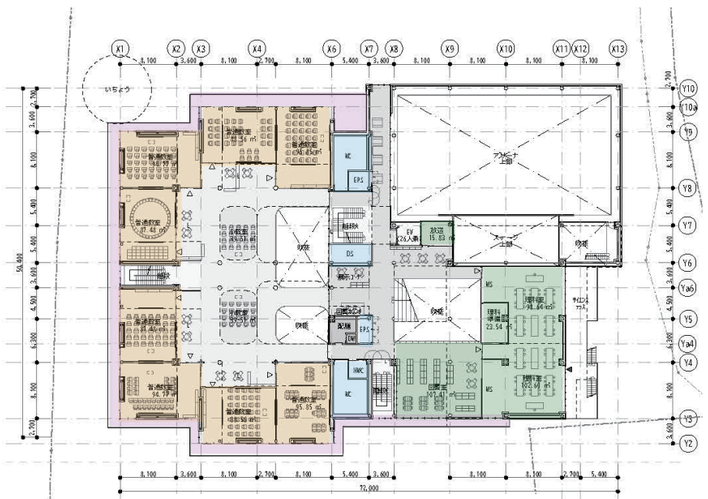
1 階



2 階



4 階



3 階

積載荷重表(N/㎡)

代表用途名	色別	構造計算の対象		
		床・小梁用	架構用	地震用
廊下、テラス アリーナ		3,500	3,200	2,100
普通教室 学童CR		2,900	2,100	1,100
特別教室 調理室		3,900	2,400	1,600
職員室 保健室		3,900	2,100	1,100
倉庫、器具庫 備蓄		7,800	6,900	4,900
バルコニー		2,900	2,400	1,300
更衣室、WC EPS、DS		1,800	1,300	600
地域連携PTA 用務		2,900	1,800	800
ELV		実況に応じて設定		
機械置場		実況に応じて設定		

(3)　地震荷重

地震力は、基準法施行令第 88 条及び関連告示の規定に準拠します。

・地震地域係数：1.0
・地盤種別：第 2 種地盤
・標準せん断力係数：0.2
・重要度係数：1.25（必要保有水平耐力の算定に考慮する）

(4)　風荷重

風荷重は、基準法施行令第 87 条及び平成 12 年告示第 1454 号の規定に準拠します。

・基準風速：Vo=34m/s
・地表面粗度区分：III
・風圧力の割増：1.15（II類　　東京都財務局構造設計指針より）
・屋根ふき材、帳壁、外装材等の風圧力は、令第 82 条の 4 及び「屋根ふき材及び屋外に面する帳壁の風圧に対する構造耐力上の安全性を確かめるための構造計算の基準を定める件」（平成 12 年告示第 1458 号）の規定により算出します。

(5)　積雪荷重

積雪荷重は、令第 86 条、「多雪区域を指定する基準及び垂直積雪量を定める基準を定める件」（平成12年告示第 1454 号）の規定により算出します。

・多雪区域指定：なし
・積雪荷重：Ss = d・ρ
　　d：直積雪荷重（cm）d = 30 cm
　　ρ：積雪の単位重量（N/cm/㎡）ρ = 20 Ss:
　　30 × 20 = 600 N/㎡　（短期荷重）
・特定緩勾配屋根部分の積雪割増

屋根勾配が 15 度以下で，かつ，最上端から最下端までの水平投影の長さが 10 メートル以上に適用

$$\sqrt{\mu_b \times d}$$

α：割り増し係数
Dr：屋根勾配と棟から軒までの長さ(m)
θ：屋根勾配(度)
L：棟から軒までの水平投影の長さ(m)
μb:屋根形状係数　　$\mu b=\sqrt{\cos(1.5\times\theta)}$
d :垂直積雪量(m)

棟(最上端)から軒(最下端)までの水平投影の長さ(m)	屋根勾配(度)	drの数値(m)
10	2以下	0.05
	15	0.01
50以上	2以下	0.14
	15	0.03

表に掲げる数値をそれぞれ直線的に補間した数値とする。

■　大地震時の変形制限

大地震動時の層間変形角は下表に示す制限値以下とします。

表　大地震時の層間変形角の制限値

構造種別	層間変形角
RC 造	1/200
SRC 造	1/200
S　造	1/100

大地震動時の層間変形角の算出

建築構造設計基準（国土交通省 令和 3 年版）を参照し、エネルギー一定に基づく下記の式より算出します。

$\delta p = (C0p / (2\ C0e))(D's + (1 / D's))\ \delta e$

δ p：大地震動時における建築物の最大水平変形
C 0 p：「令」第 88 条第 3 項に規定する標準せん断力係数（1.0 以上）
C 0 e：「令」第 88 条第 2 項に規定する標準せん断力係数（0.2 以上）
δ e：「令」第 82 条の 2 に規定する建築物の地上部分に生じる水平方向の層間変位
D's：保有水平耐力の余裕を考慮し、構造特性係数を補正した係数
　D's ＝ Ds（Qu / Qun）
Q u ： 保有水平耐力
Q u n ： 必要保有水平耐力
D s ： 構造特性係数

C. 構造計画

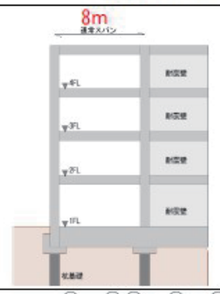
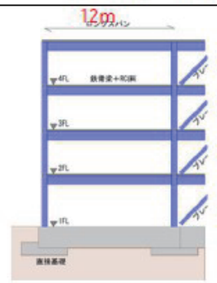
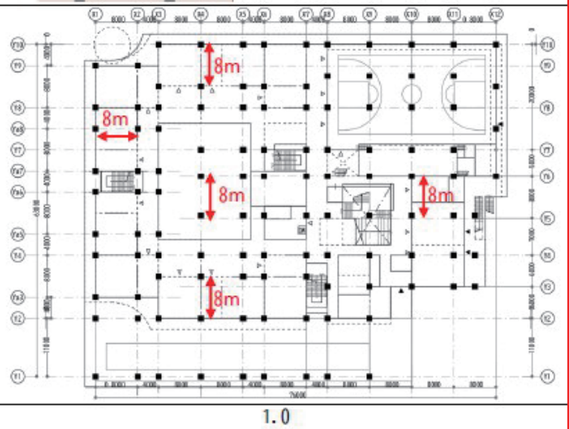
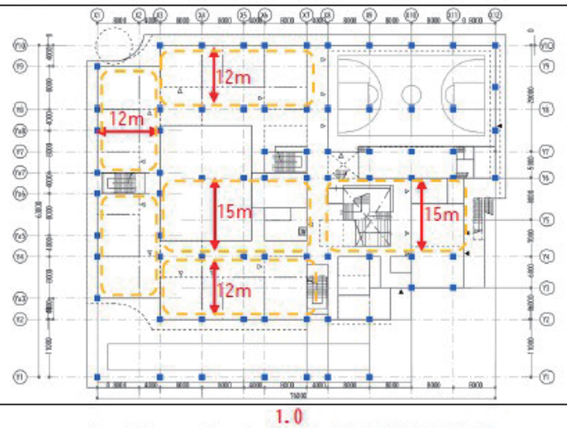
■ 上部架構

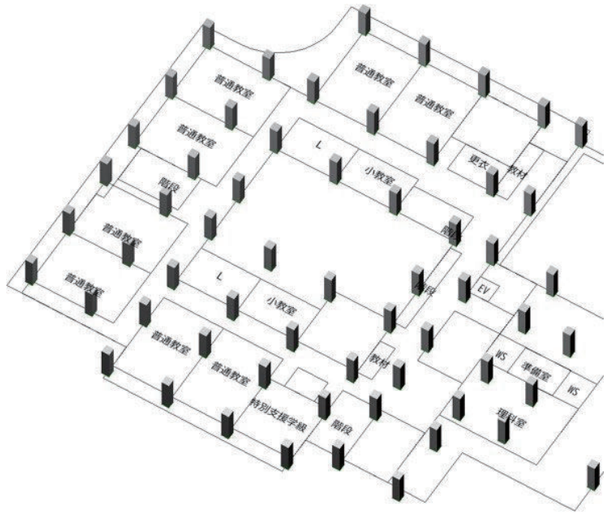
(1) 構造種別

これまで、小中学校の学校建築は鉄筋コンクリート（RC）造でつくられることが一般的でした。ここでは、下記に配慮し、鉄骨（S）造についても検討を行いました。

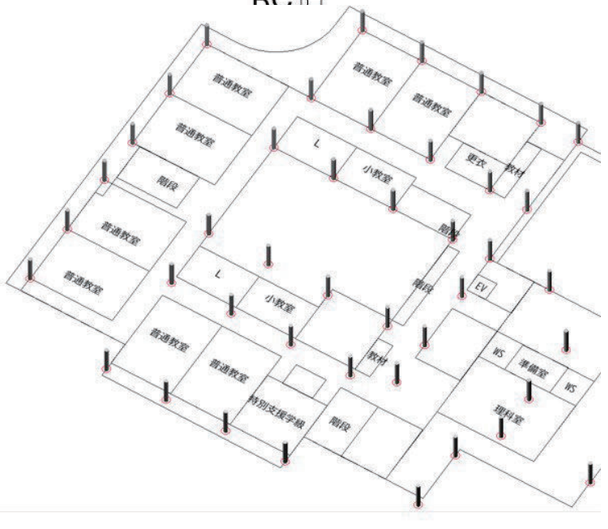
・近年、躯体工事の単価高騰がつづき、特に型枠工事の価格上昇が激しいこと
・計画地の地盤を鑑み、建物を軽量につくることにメリットがある可能性があること
・柱間隔を広くできると、大きな部屋のレイアウトが可能で、また将来改変時にも優位なこと
・建設時および解体時のエネルギー（省 CO2）への配慮

比較検討結果を表に示します。
本計画には、鉄骨造が優位と判断しました。建設時コストを考慮し、構造は耐震構造を採用します。

		鉄筋コンクリート（RC）造 耐震壁つきラーメン架構	鉄骨（S）造　ロングスパン計画 ブレース付きラーメン架構
特徴		従来の学校建築・標準的な8m程度スパン	ロングスパンとしてフレキシビリティに優れる案
概要図 部材サイズ 基礎		 柱：1000×1000 大梁：梁せい900~1000 耐震壁：厚300~500 杭基礎	 柱：角型鋼管　600x600 大梁：梁成H600~800 ブレース：□—300 直接基礎（地盤改良）
柱配置 ※計画の自由度 ※フレキシビリティ ※更新性			
構造躯体	新築時 躯体コスト比	1.0	1.0 杭不要とロングスパンにともなう鋼材量増が相殺
構造躯体	環境性能（排出CO2）	建設時、解体時とも排出CO2は多い	建設時、解体時ともRC造に比べ優位
構造躯体	超長期対応 （免震化）	可能 免震化コスト　+10%	可能 免震化コスト+6%（柱本数にともない装置台数が少ない）
建築計画	計画の自由度	耐震壁のバランス確保が必要のため、計画に工夫を要する	ブレース位置により計画に工夫を要する
建築計画	将来改変 フレキシビリティ	耐震壁は取り除くことが出来ないため、計画に工夫が必要で、改変時に支障をきたす可能性がある	教室モデュールよりも大きな空間での改変に対応できる
設備	計画の自由度	梁貫通径は梁成の1/3以内に制約	梁貫通径は梁成の1/2（既製品：2/3）と、RCに比べ貫通自由度は高い
メンテ	構造躯体	鉄筋の発錆や中性化に対する適切なメンテナンス・検査により80~120年以上の耐久性。大地震時は別途躯体の検査が必要。	鉄骨の腐食に対する適切なメンテナンス・検査により80~120年以上の耐久性。大地震時は別途躯体の検査が必要。
メンテ	外部仕上げ材	良好な品質の躯体が構築できれば、修繕コストの低減も見込める可能性があるが施工者の品質によるところが大きい。品質や工事工期がやや不安定。	外壁のコストは安価であり品質が安定する。修繕コストがRCに比べかかる可能性がある。更新年数は採用商品によって異なるが概ね50年程度。
工期		約21.5ヶ月（杭基礎を想定）	約17ヶ月（直接基礎を想定）



RC造



S造

C. 構造計画

(2)　架構形式

新校の教室は、教室の４面に黒板・掲示板等を配置して、従来の一方向指導型ではなく、多様な学び方・個別最適な学びを促す計画です。

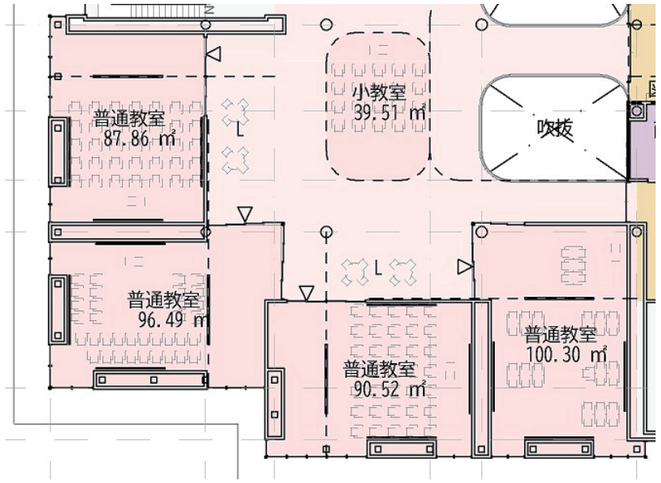
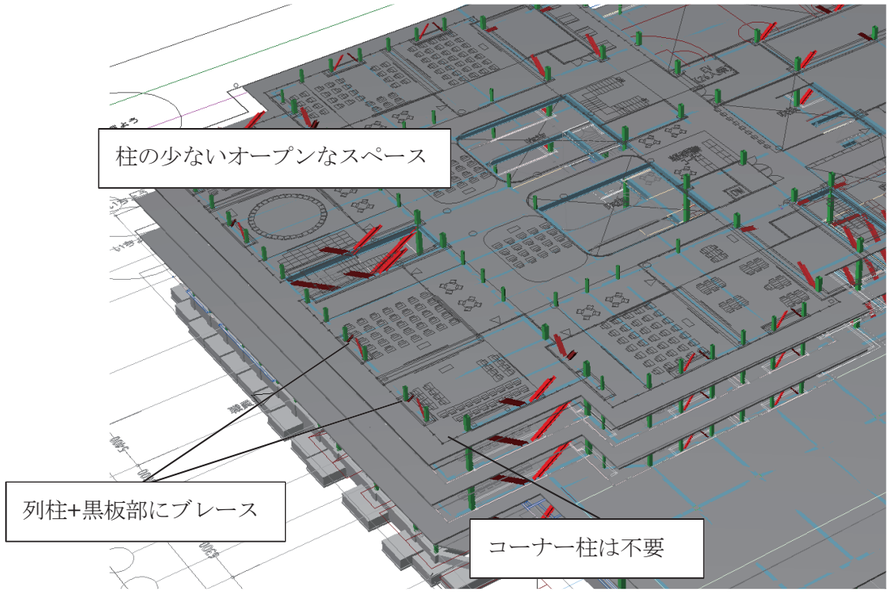


図　教室ユニット平面図

この校舎の特徴にマッチする構造計画として、黒板部分を積極的に耐震要素として活用する架構を考案しました。



外周の黒板部分および階段等コア周囲に耐震ブレースを設置することで、大地震時にも効率的に変形を抑えることが可能な構造で、ブレースの地震力負担割合も多く、経済的な架構です。

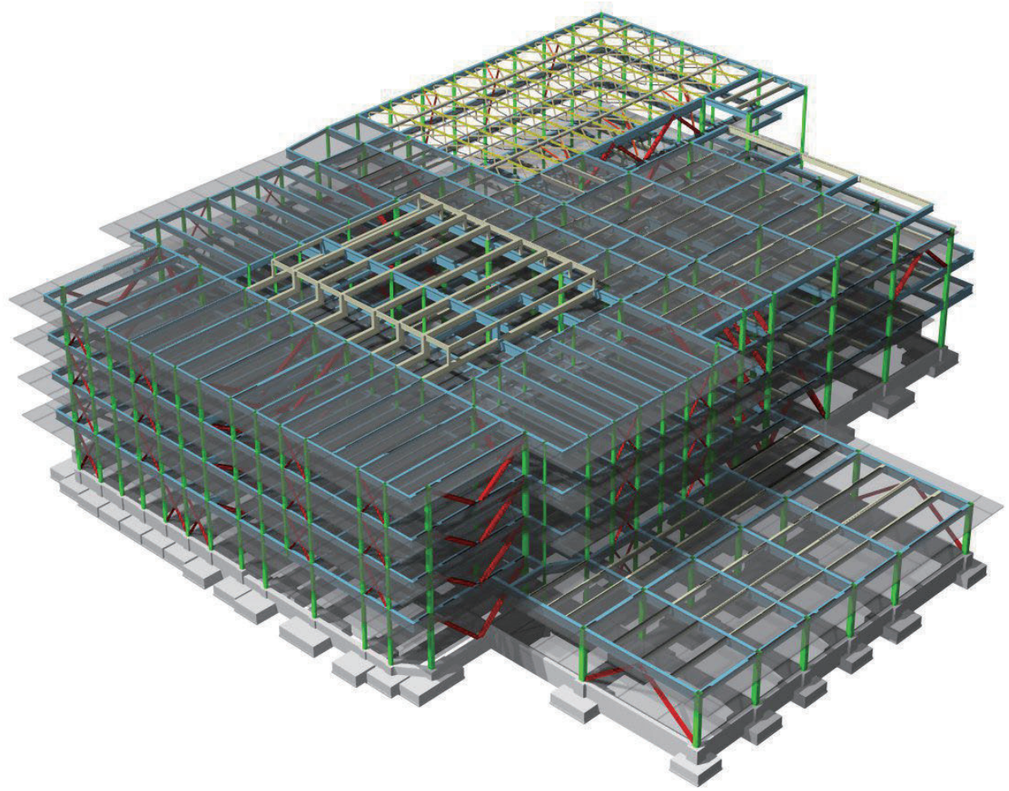


図　主架構イメージ

(3)　床計画

使用性およびコストに配慮し、以下を計画します。

・１階床：普通コンクリートスラブ
・普通教室床：合成デッキスラブ
・上記以外：フラットデッキスラブ

2. 地盤および基礎概要

■ 地盤概要

地盤調査により、計画地の地層は表層部より、盛土層（B）と関東ローム層（Lm）、武蔵層礫層（Mg）、Mg に挟在される粘性土層（Mg-c）とその下位に分布する青梅第 1 砂礫層（Og1）が確認されました。分布する地層の層序表および地質推定断面図を以下に示します。

表　地層順序

地質時代			地層名		記号	土質名	層厚（m）	N値（平値）
新生代	第四紀	現世	盛土層		B	砕石、砂質土	0.20～0.60	-
		更新世	関東ローム層		Lm	ローム	4.10～4.90	1～5（3.0）
			武蔵野礫層	第1粘性土層	Mg-c1	砂混じり凝灰質粘土	0.00～0.65	0～1（0.5）
				礫層	Mg	砂礫	1.90～2.15	16～60（41.9）
				第2粘性土層	Mg-c2	凝灰質粘土 砂質粘土	3.75～4.55	3～7（4.4）
			青梅砂礫層	第1砂礫層	Og1	砂礫	6.09～13.20 以上	15～60（52.9）

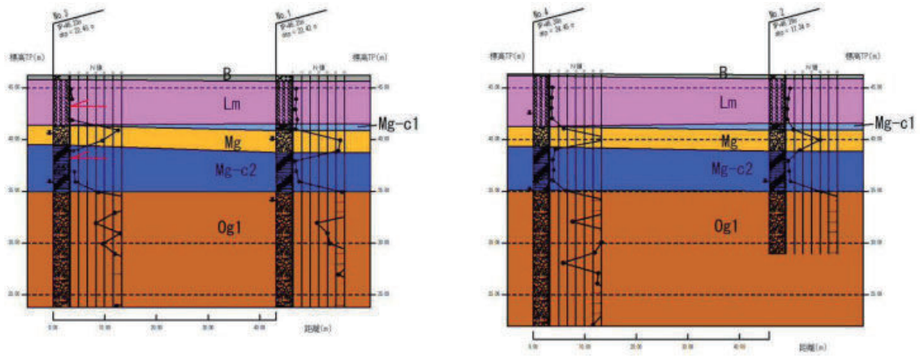


図　地質推定断面図

4 か所のボーリング結果は、隣接する市役所の地盤調査結果とも近似しており、このことから敷地周辺一帯に同様の地質が広がるものと類推できます。

■ 地下水位

地盤調査による水位測定の結果、地盤面から約 11m 下方が自然水位と想定されます。

■ 孔内水平載荷試験結果

表　孔内水平載荷試験結果

地点	測定深度（センター）GL-(m)	土層	記号	N値	変形係数 E(MN/m²)
No.3	3.0	関東ローム層	Lm	3	4.638
No.3	8.0	武蔵野礫層 第2粘性土層	Mg-c2	4	16.755

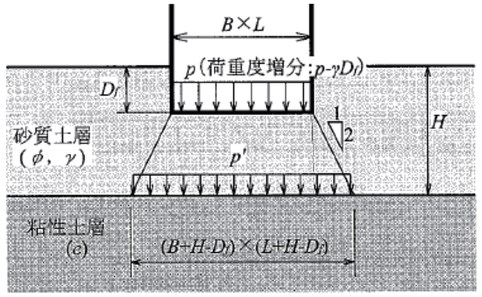
■ 圧密特性

Lm 層、Mg-c2 層ともに、過圧密状態であることがわかりました。

■ 平板載荷試験

試験の結果、極限支持力度Ｐu＝360.0kＮ/m2、降伏荷重＝210.0kＮ/m2 が認められました。
建築基礎構造設計指針に従い、長期許容支持力度は　qa=326.6/3=108.8 kN/m2 が算出されます。
Lm 層の長期許容地耐力は 100 kN/m2 とします。

■ 層状地盤の鉛直支持力



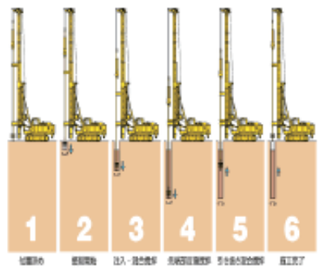
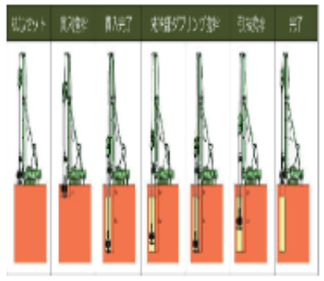
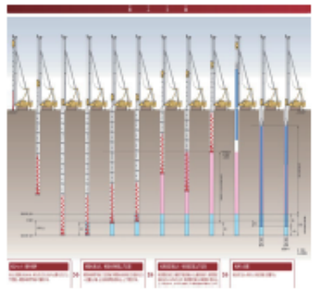
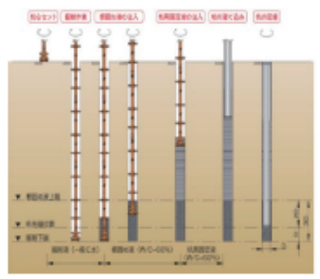
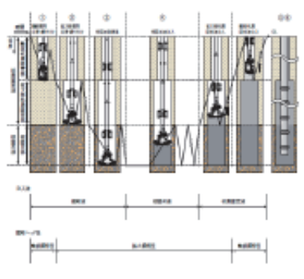
建物構築に伴う粘性土層表面に作用する荷重度増分の説明図

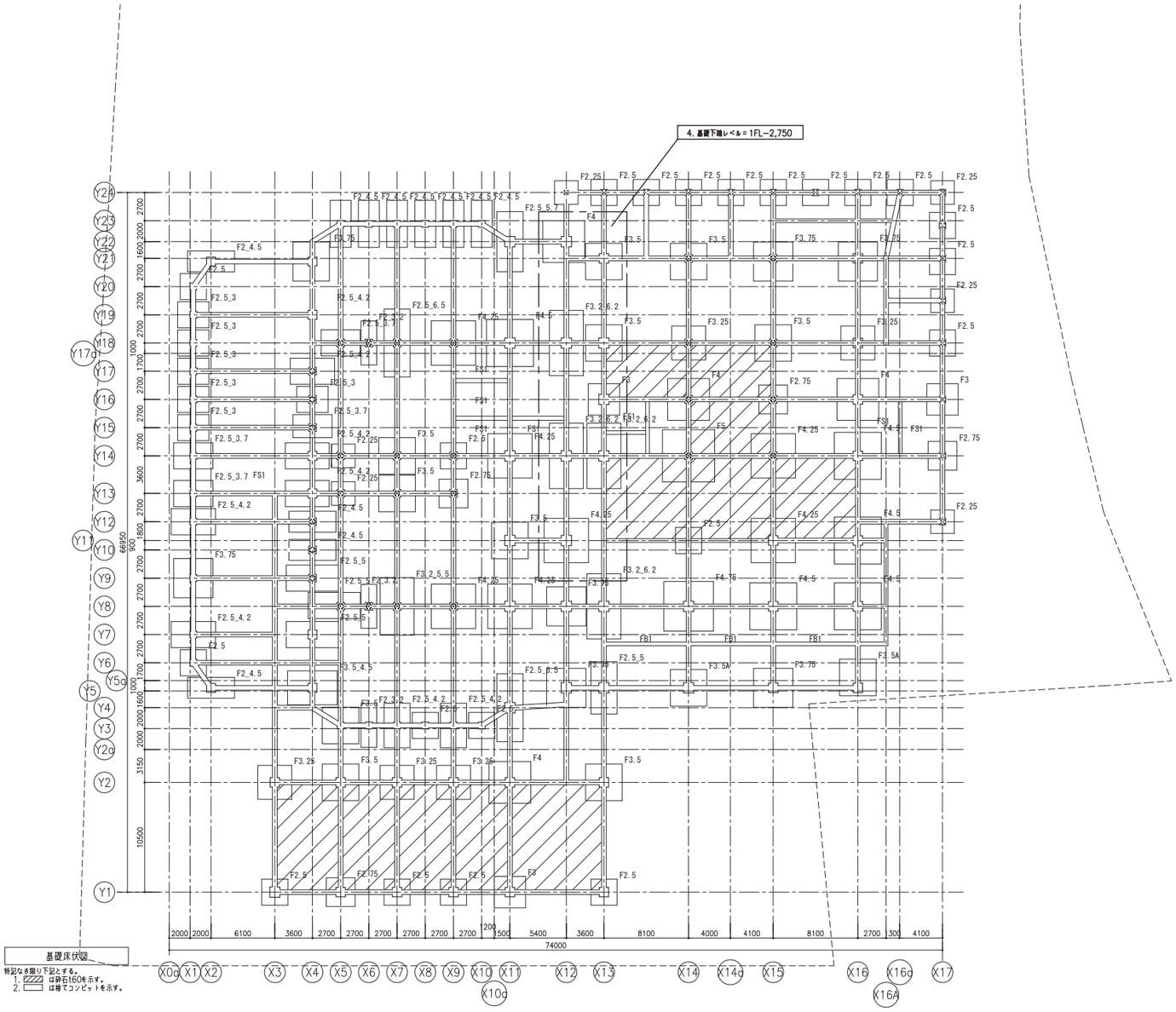
基礎サイズ 3 x 3m、分散角=勾配 1：2 とすると、根入れを見込まない場合にも極限支持力度qu2 は 634.44(kN/m2)となり、したがって、長期qa=634.44/3=211.4 kN/m2 が見込まれます。

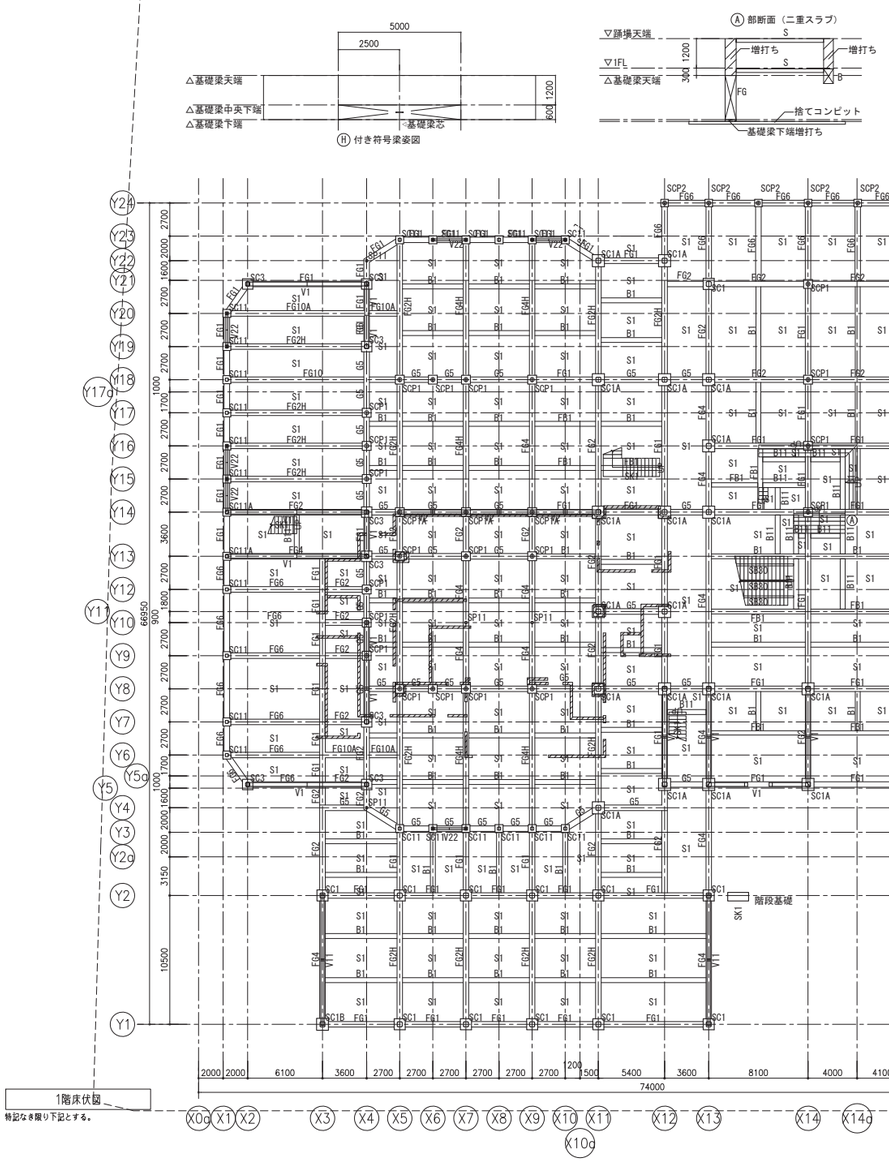
■ 基礎形式

比較検討の結果、基礎は Mg層を支持層とした直接基礎とします。基礎フーチング底面から支持層の間は地盤改良を行います。
次ページ以降に比較検討結果を示します。

■特殊基礎比較表

基礎の種類	地盤改良		既製コンクリート杭			現場打ちコンクリート杭
	深層混合処理工法	深層混合処理工法	プレボーリング拡大根固め工法	プレボーリング拡大根固め工法	プレボーリング拡大根固め工法	アースドリル式拡底工法
工法名	エスミコラム工法	エポコラム工法	Hyper-ストレート工法	HiFBⅡ工法	Hybridニーディング工法	KCTB場所打ち鋼管コンクリート拡底杭(アースドリル工法)
施工概要						
特徴	・砂質土から粘性土、ロームまでいろいろな土質に適応。 ・施工の精度を高めるために共回り現象を防ぐ3タイプの攪拌翼での施工。 ・強度、安定性に優れた良質のコラム体を造成。	・優れた混合攪拌・施工管理によって、従来の地盤改良工法にはない高品質・高強度のコラムを造ることができる。 ・支持層に不陸がある場合、杭長の設定を現場にて対応しやすい。	・杭先端支持力係数 α=363/ α =341 ・施工管理装置システムにより、高支持力と高い信頼性を確保。 ・ストレート掘削のため施工管理が容易で工期も短縮される。	・ストレート掘削のため、根固め球根部分の管理が容易である。 ・既存杭は新設杭と干渉する場合は、別工程・別工法にて既存杭を撤去しその後、流動化処理土等で埋め戻す必要がある。	・拡大球根部内の節部の効果により、大きな支持力を発現することが出来る。 ・杭1本当たりの鉛直支持力が大きくなり、小径の杭で設計できる。	・普通場所打ちコンクリート杭に比べて軸径を大幅に低減。 ・靭性が大きい為地震時の安全性が大。 ・曲げ剛性・せん断耐力が大。 ・設計の自由度が高い。 ・コンクリート設計基準強度が大。
先端深度	GL-4.9～5.8m	GL-11.3～11.7m	GL-15.5m	GL-20.5m	GL-14.5m	GL-20m
採用平均N値	N=15	N=26	N=38	N=55	N=38	N=50
杭先端支持力	α =75	α =75	α =363	α =340～372	α =448	α =150
杭・コラム仕様	φ1000 353本	φ2300 174 本	φ600 57本	φ400 7本	φ5065 26本	φ1300-1300 45本
	φ 1200 622本		φ 700 54本	φ500 22本	φ6075 17本	φ 1300-1800 26本
			φ 800 24本	φ600 14本	φ7090 14本	φ 1500-1500 7本
				φ 700 14本	φ 80100 22本	φ 1800-1800 10本
				φ 800 18本		
				φ 900 4本		
	計 975本	計 174本	計 135本	計 79本	計 79本	計 88本
	改良長(1本当):3.25m	改良長(1本当):9.15m	杭長(1本当):13m	杭長(1本当):18m	杭長(1本当):12m	杭長(1本当):17.5m
工事費率 (HiFB Ⅱ 工法基準)	0.844	1.462	1.660	1.000	1.048	4.713
検討・見積メーカー	(株)エステック	(株)エステック	株式会社トーヨーアサノ	日本ヒューム㈱	三谷セキサン㈱	東洋テクノ㈱
総合判定	◎	△	△	○	△	×
備考						


4. 基礎下端レベル＝1FL−2,750
基礎床伏図
特記なき限り下記とする。
1. ▨ は鉄右150を示す。
2. ▭ は捨てコンピットを示す。
Y2H Y23 Y22 Y21 Y20 Y19 Y18 Y17c Y17 Y16 Y15 Y14 Y13 Y12 Y11 Y10 Y9 Y8 Y7 Y6 Y5c Y5 Y4 Y3 Y2c Y2 Y1
X0c X1 X2 X3 X4 X5 X6 X7 X8 X9 X10 X11 X10c X12 X13 X14 X14c X15 X16 X16c X16A X17
2000 2000 6100 3600 2700 2700 2700 2700 2700 2700 200 1500 5400 3600 8100 4000 4100 8100 2700 300 4100
74000
10500
3150
2000
1600
1000
1700
3600
1800
900
850



柱リスト

階	SC1	SC1A	SC1B	SC3	SC11
1	□ -400x400x19 (BCR295)	□ -400x400x19 (BCR295)	□ -400x400x19 (BCR295)	□ -350x350x22 (BCR295)	□ -250x250x16 (BCR295)
階	**SC11A**	**SCP1**	**SCP1A**	**SCP2**	**SP11**
1	□ -250x250x16 (BCR295)	○ -355.6x16 (SN490B)	○ -355.6x16 (SN490B)	○ -318.5x10.3 (SN490B)	□ -175x175x9 (BCR295)

ブレースリスト

符号	断面
V1	UB400-180-2（φ318.5×6.0）
V11	UB400-108-2（φ267.4×6.0）
V21	2[-125×65×6×8
V22	2[-150×75×9×12.5

基礎大梁リスト

階	符号	位置	B×D
1	FG1～FG4	全断面	450x1,800
	FG6	全断面	450x1,350
	G5	全断面	450x1,200
	G10	全断面	450x900

小梁リスト

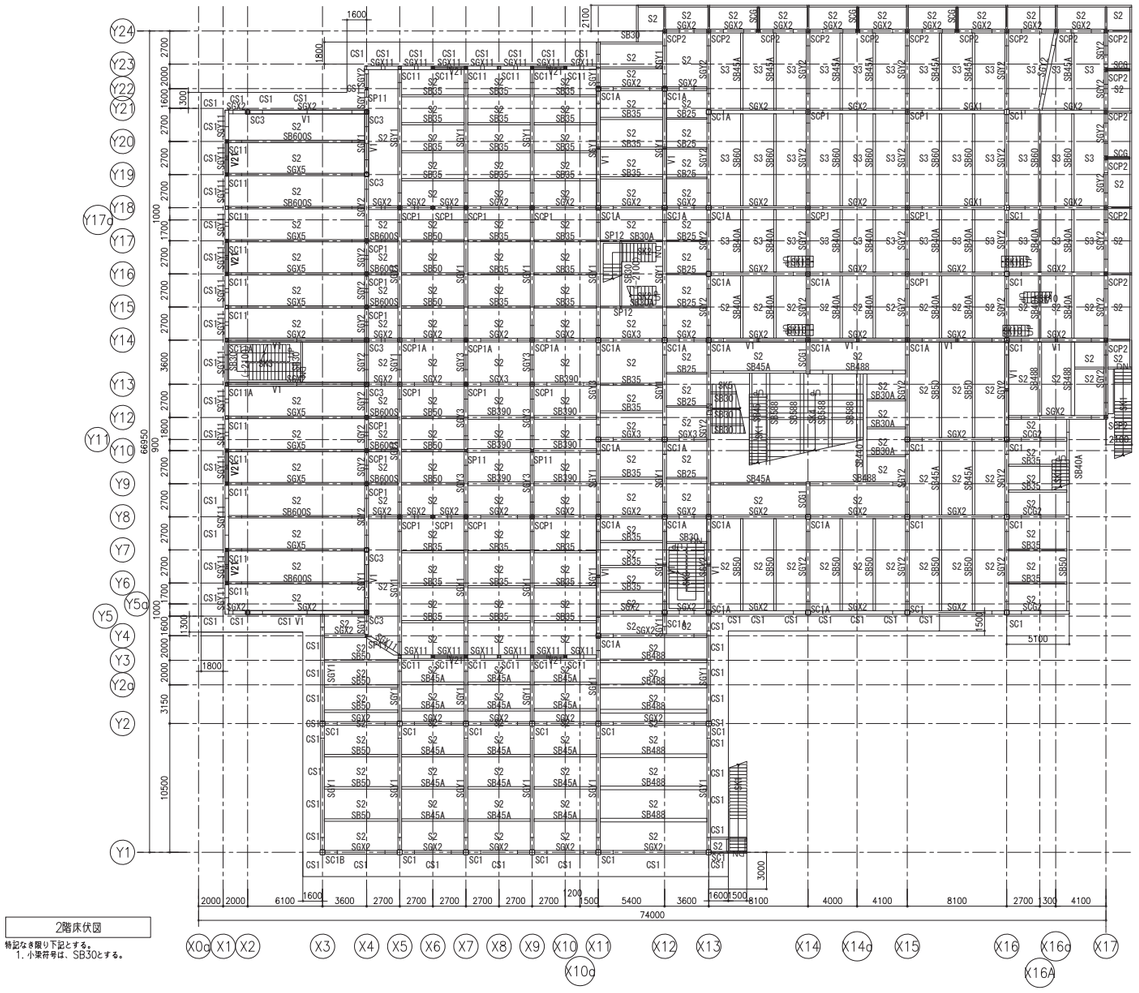
符号	位置	B×D
FB1	全断面	350x1,800
B1	全断面	400x900

スラブリスト

符号	版厚
S1	150
S2	155
S3	200
DS1	155
CS1	150

柱リスト

階	SC1	SC1A	SC1B	SC3	SC11
2	□ -350x350x16 (BCR295)	□ -350x350x16 (BCR295)		□ -350x350x16 (BCR295)	□ -250x250x16 (BCR295)
階	**SC11A**	**SCP1**	**SCP1A**	**SCP2**	**SP11**
2	□ -250x250x16 (BCR295)	○ -267.4x12.7 (SN490B)	○ -267.4x12.7 (SN490B)	○ -318.5x10.3 (SN490B)	□ -175x175x9 (BCR295)



2階床伏図

特記なき限り下記とする。
1. 小梁符号は、SB30とする。

ブレースリスト

符号	断面
V1	UB400-180-2 (φ318.5×6.0)
V11	UB400-108-2 (φ267.4×6.0)
V21	2[-125×65×6×8
V22	2[-150×75×9×12.5

大梁リスト

階	符号	位置	断面
2	SGX1	全断面	H -792x300x14x22 (SN490B)
	SGX2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGX3	全断面	H -390x300x10x16 (SN490B)
	SGX5、SGY5	全断面	SH -600x200x12x22 (SN490B)
	SGX11	全断面	H -792x300x14x22 (SN490B)
	SGY1	全断面	H -792x300x14x22 (SN490B)
	SGY2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGY3	全断面	H -390x300x10x16 (SN490B)
	SGX11、SGY11	全断面	H -792x300x14x22 (SN490B)

小梁・片持ち梁リスト

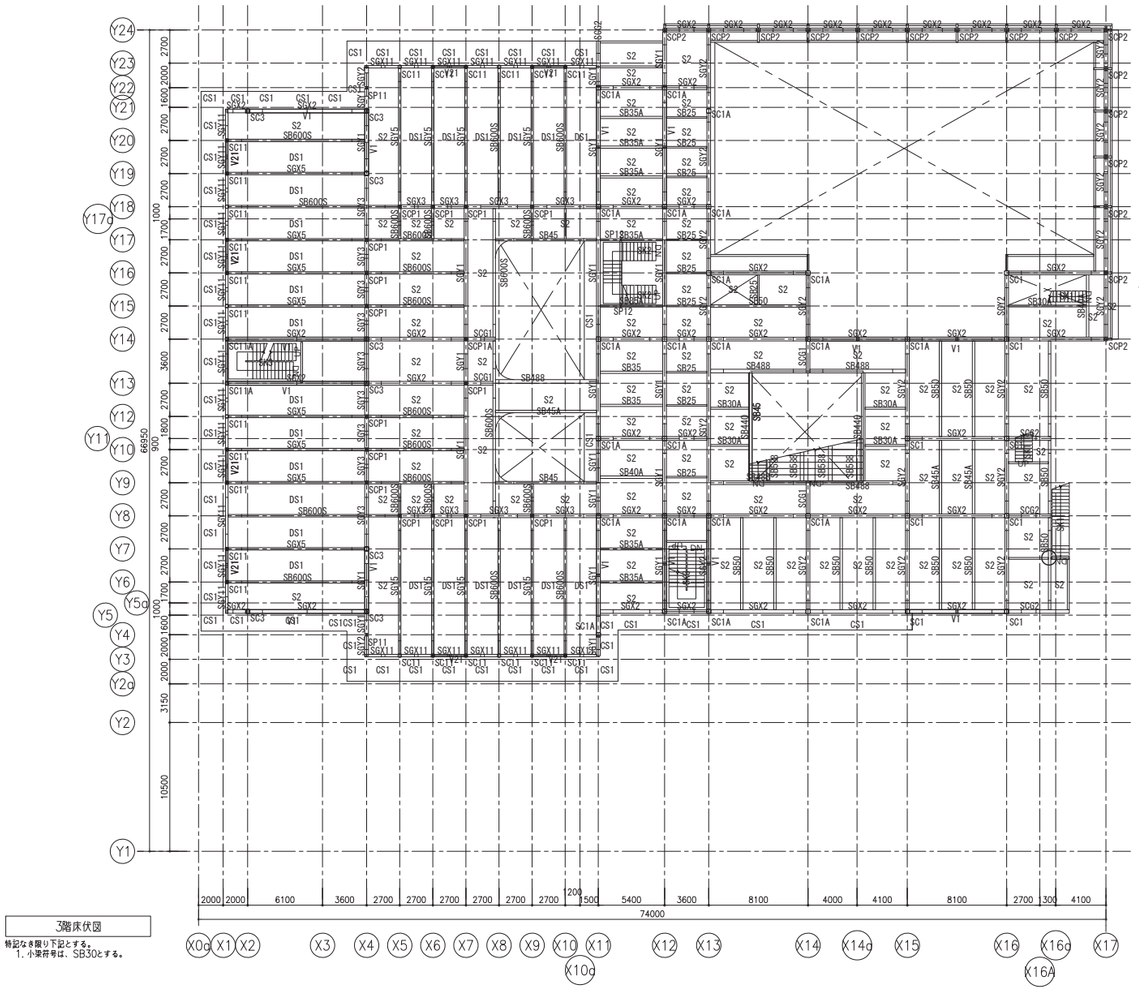
符号	位置	断面
SB25	全断面	H -250x125x6x9
SB25A	全断面	H -248x124x5x8
SB30A	全断面	H -298x149x5.5x8
SB35	全断面	H -350x175x7x11
SB35A	全断面	H -346x174x6x9
SB40A	全断面	H -396x199x7x11
SB45	全断面	H -450x200x9x14
SB45A	全断面	H -446x199x8x12
SB50	全断面	H -500x200x10x16
SB60	全断面	H -600x200x11x17
SB390	全断面	H -390x300x10x16
SB440	全断面	H -440x300x11x18
SB488	全断面	H -488x300x11x18
SB588	全断面	H -588x300x12x20
SB588A	全断面	H -582x300x12x17
SB600S	全断面	SH -600x200x12x22
SCB1	全断面	H -350x175x7x11
SCG1	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
SCG2	全断面	H -800x300x14x26 (SN490B)

スラブリスト

符号	版厚
S1	150
S2	155
S3	200
DS1	155
CS1	150

柱リスト

階	SC1	SC1A	SC1B	SC3	SC11
3	□ -350x350x16 (BCR295)	□ -350x350x16 (BCR295)		□ -350x350x16 (BCR295)	□ -250x250x16 (BCR295)
階	**SC11A**	**SCP1**	**SCP1A**	**SCP2**	**SP11**
3	□ -250x250x16 (BCR295)	○ -267.4x12.7 (SN490B)	○ -267.4x12.7 (SN490B)	○ -318.5x10.3 (SN490B)	□ -175x175x9 (BCR295)



3階床伏図

特記なき限り下記とする。
1. 小梁符号は、SB30とする。

ブレースリスト

符号	断面
V1	UB400-180-2 (φ318.5×6.0)
V11	UB400-106-2 (φ267.4×6.0)
V21	2[-125×65×6×8
V22	2[-150×75×9×12.5

大梁リスト

階	符号	位置	断面
3	SGX2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGX3	全断面	H -390x300x10x16
	SGX5	全断面	SH -600x200x12x22 (SN490B)
	SGX11	全断面	H -600x200x11x17 (SN490B)
	SGY1	全断面	H -792x300x14x22 (SN490B)
	SGY2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGY3	全断面	H -390x300x10x16
	SGY5	全断面	SH -600x200x12x22 (SN490B)
	SGY11	全断面	H -600x200x11x17 (SN490B)

小梁・片持ち梁リスト

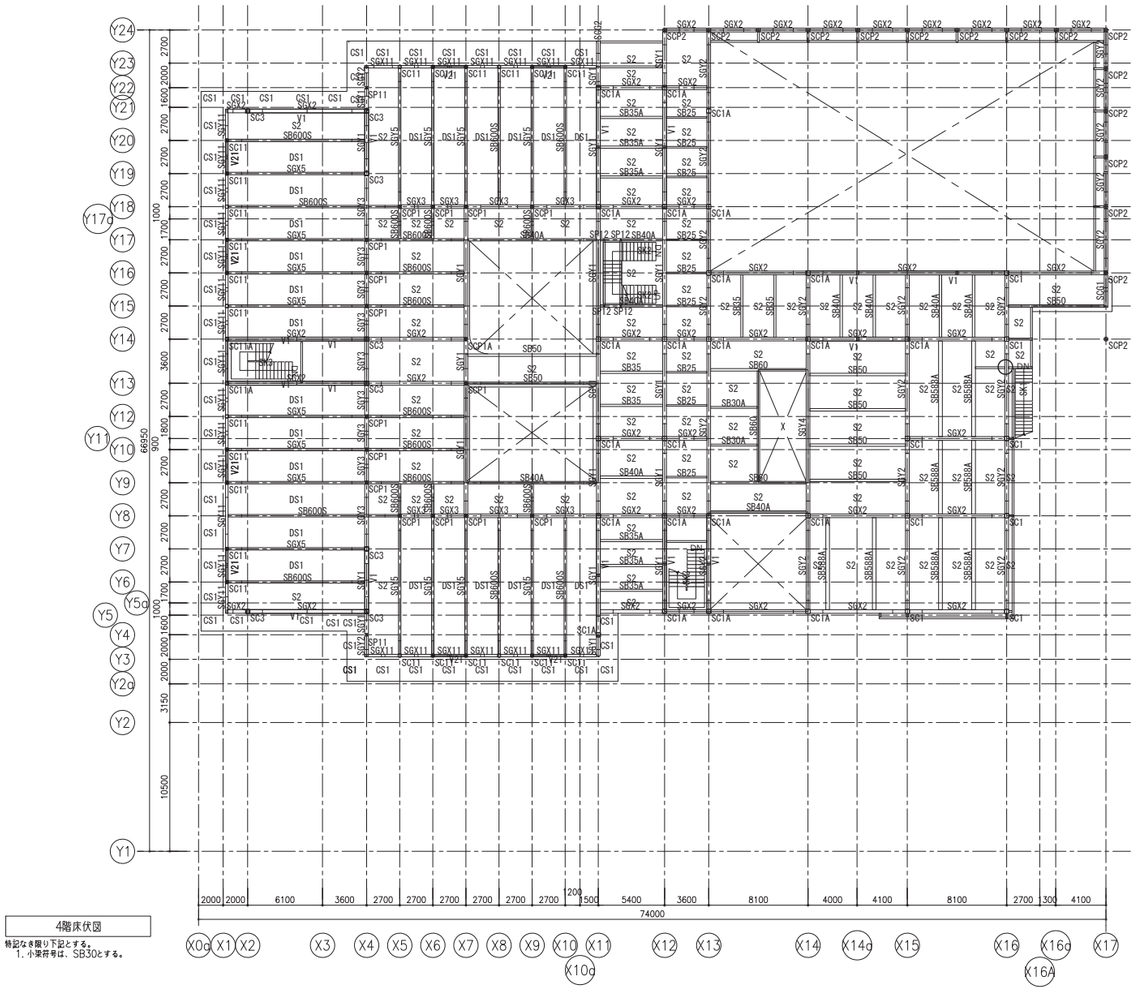
符号	位置	断面
SB25	全断面	H -250x125x6x9
SB25A	全断面	H -248x124x5x8
SB30A	全断面	H -298x149x5.5x8
SB35	全断面	H -350x175x7x11
SB35A	全断面	H -346x174x6x9
SB40A	全断面	H -396x199x7x11
SB45	全断面	H -450x200x9x14
SB45A	全断面	H -446x199x8x12
SB50	全断面	H -500x200x10x16
SB60	全断面	H -600x200x11x17
SB390	全断面	H -390x300x10x16
SB440	全断面	H -440x300x11x18
SB488	全断面	H -488x300x11x18
SB588	全断面	H -588x300x12x20
SB588A	全断面	H -582x300x12x17
SB600S	全断面	SH -600x200x12x22
SCB1	全断面	H -350x175x7x11
SCG1	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
SCG2	全断面	H -800x300x14x26 (SN490B)

スラブリスト

符号	版厚
S1	150
S2	155
S3	200
DS1	155
CS1	150

柱リスト

階	SC1	SC1A	SC1B	SC3	SC11
4	□ -350x350x16 (BCR295)	□ -350x350x16 (BCR295)		□ -350x350x16 (BCR295)	□ -250x250x16 (BCR295)
階	**SC11A**	**SCP1**	**SCP1A**	**SCP2**	**SP11**
4	□ -250x250x16 (BCR295)	○ -267.4x12.7 (SN490B)		○ -318.5x10.3 (SN490B)	□ -175x175x9 (BCR295)



4階床伏図

特記なき限り下記とする。
1. 小梁符号は、SB30とする。

ブレースリスト

符号	断面
V1	UB400-180-2 (φ318.5×6.0)
V11	UB400-106-2 (φ267.4×6.0)
V21	2[-125×65×6×8
V22	2[-150×75×9×12.5

大梁リスト

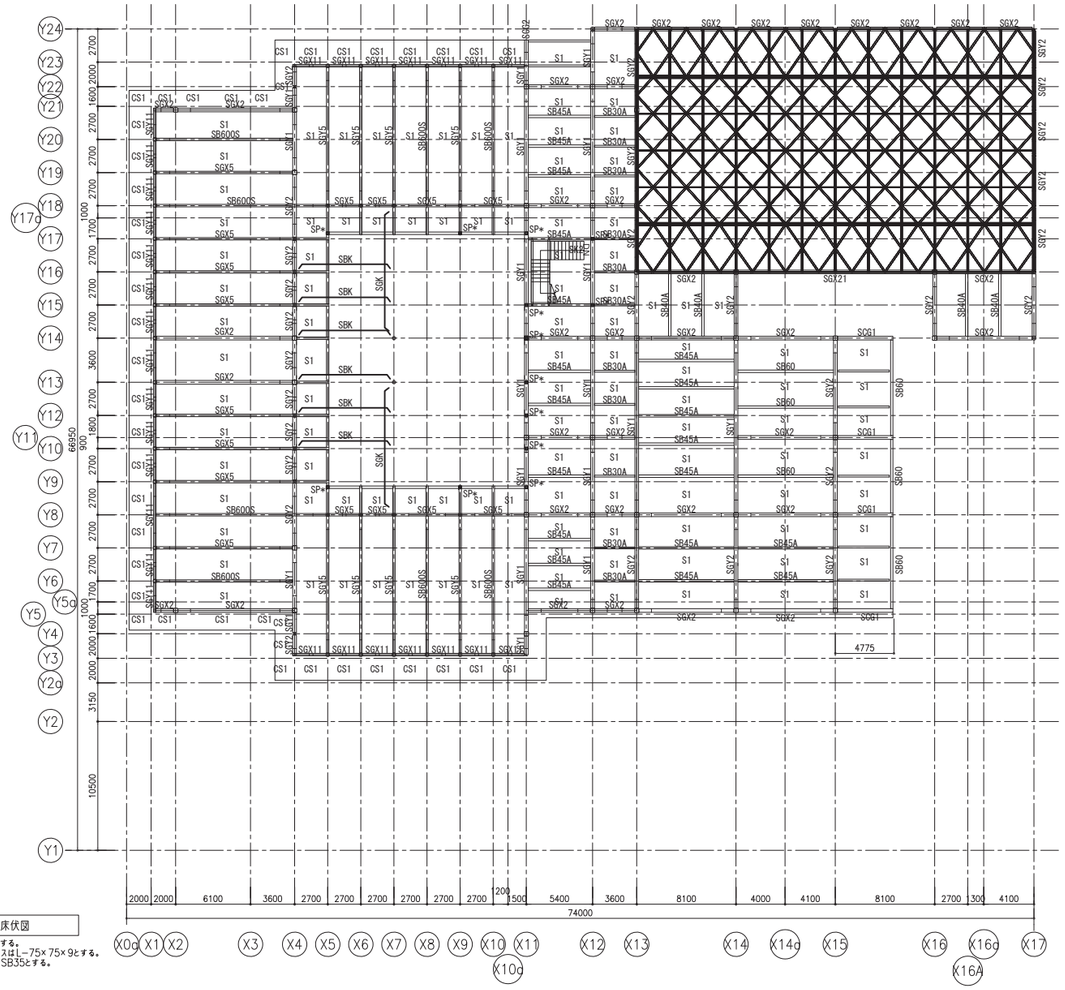
階	符号	位置	断面
4	SGX2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGX3	全断面	H -390x300x10x16
	SGX5	全断面	SH -600x200x12x22 (SN490B)
	SGX11	全断面	H -600x200x11x17 (SN490B)
	SGY1	全断面	H -792x300x14x22 (SN490B)
	SGY2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGY3	全断面	H -390x300x10x16
	SGY4	全断面	H -800x300x14x26 (SN490B)
	SGY5	全断面	SH -600x200x12x22 (SN490B)

小梁・片持ち梁リスト

符号	位置	断面
SB25	全断面	H -250x125x6x9
SB25A	全断面	H -248x124x5x8
SB30A	全断面	H -298x149x5.5x8
SB35	全断面	H -350x175x7x11
SB35A	全断面	H -346x174x6x9
SB40A	全断面	H -396x199x7x11
SB45	全断面	H -450x200x9x14
SB45A	全断面	H -446x199x8x12
SB50	全断面	H -500x200x10x16
SB60	全断面	H -600x200x11x17
SB390	全断面	H -390x300x10x16
SB440	全断面	H -440x300x11x18
SB488	全断面	H -488x300x11x18
SB588	全断面	H -588x300x12x20
SB588A	全断面	H -582x300x12x17
SB600S	全断面	SH -600x200x12x22
SCB1	全断面	H -350x175x7x11
SCG1	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
SCG2	全断面	H -800x300x14x26 (SN490B)

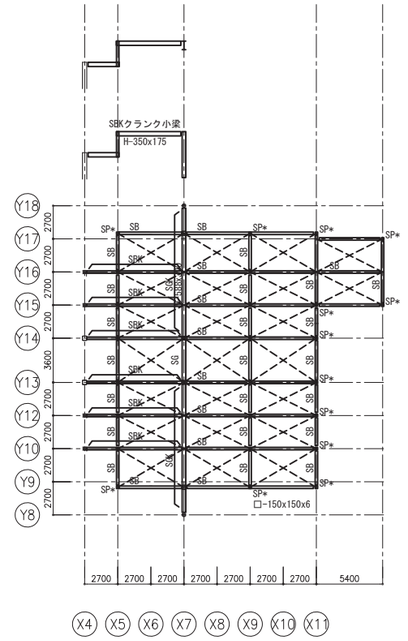
スラブリスト

符号	版厚
S1	150
S2	155
S3	200
DS1	155
CS1	150



R階床伏図

特記なき限り下記とする。
1. 屋根面ブレースは∟-75×75×9とする。
1. 小梁符号は、SB35とする。



吹き抜け上部伏図

大梁リスト

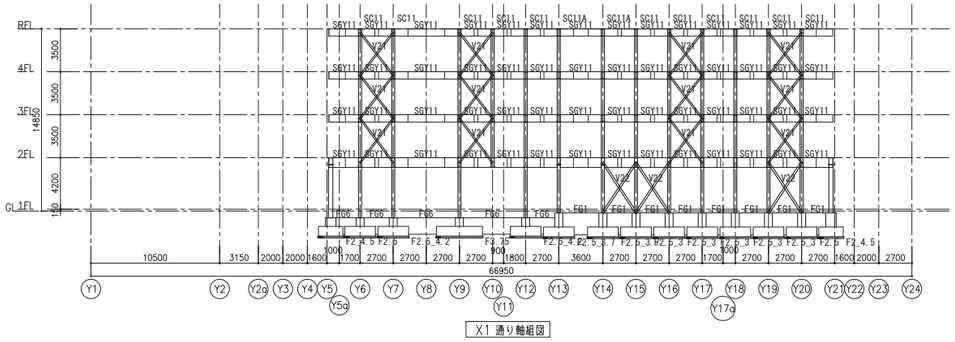
階	符号	位置	断面
R	SGX2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGX5	全断面	SH -600x200x12x22 (SN490B)
	SGX11	全断面	H -600x200x11x17 (SN490B)
	SGX21	全断面	H -900x300x16x28 (SN490B)
	SGY1	全断面	H -692x300x13x20 (SN490B)
	SGY2	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
	SGY5	全断面	SH -600x200x12x22 (SN490B)
	SGY11	全断面	H -600x200x11x17 (SN490B)

スラブリスト

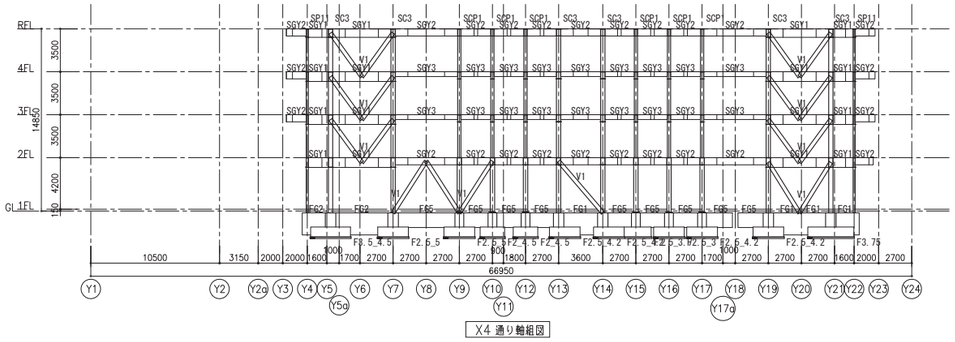
符号	版厚
S1	150
S2	155
S3	200
DS1	155
CS1	150

小梁・片持ち梁リスト

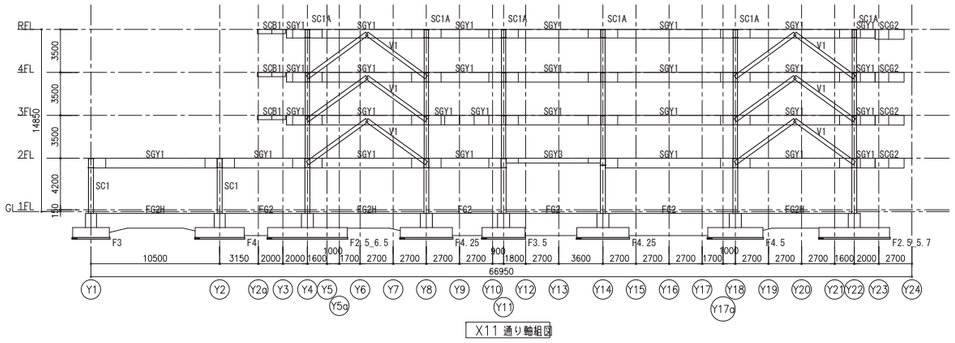
符号	位置	断面	符号	位置	断面
SB25	全断面	H -250x125x6x9	SB60	全断面	H -600x200x11x17
SB25A	全断面	H -248x124x5x8	SB390	全断面	H -390x300x10x16
SB30A	全断面	H -298x149x5.5x8	SB440	全断面	H -440x300x11x18
SB35	全断面	H -350x175x7x11	SB488	全断面	H -488x300x11x18
SB35A	全断面	H -346x174x6x9	SB588	全断面	H -588x300x12x20
SB40A	全断面	H -396x199x7x11	SB588A	全断面	H -582x300x12x17
SB45	全断面	H -450x200x9x14	SB600S	全断面	SH -600x200x12x22
SB45A	全断面	H -446x199x8x12	SCB1	全断面	H -350x175x7x11
SB50	全断面	H -500x200x10x16	SCG1	全断面	H -582x300x12x17 (SN490B)
			SCG2	全断面	H -800x300x14x26 (SN490B)



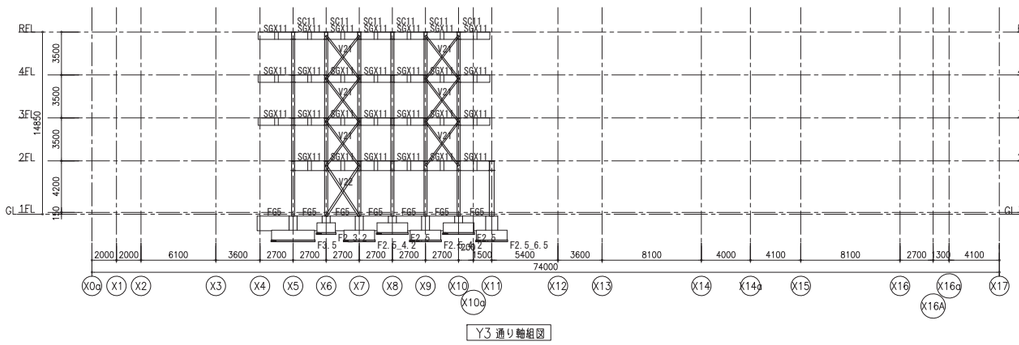
X1 通り軸組図



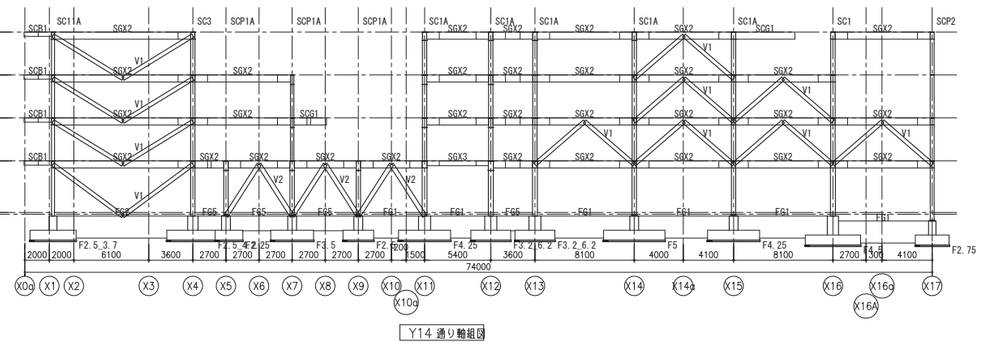
X4 通り軸組図



X11 通り軸組図



Y3 通り軸組図



Y14 通り軸組図